

平成27年度後期政和会行政視察研修報告

【期 日】 平成27年11月17日～11月20日（4日間）

【視察先】 岡山県 岡山理科大学 好適環境水による養殖について
岡山県 真庭市 CLTへの取り組みと林業再生について
島根県 大田市 世界遺産「石見銀山」への取り組みと観光客誘致

【参加者】 濱欠明宏 佐々木栄幸 大沢俊光 砂川利男 黒沼繁樹

【視察研修内容】

1. 岡山理科大学は学校法人加計学園の理数専門学校で、その好適環境水による海水に依存しない養殖システム研究所を視察研修しました。

（対応者）広報室参与 今井充、准教授 山本俊政、東村研究員

好適環境水は海水でも淡水でもない第3の水で、山本俊政准教授が作り出しました、魚の浸透圧調整に関わるナトリウム・カリウム・カルシウムの3つの成分に着目し、その最適な濃度を特定し、そのわずかな濃度の電解質を淡水に加えるだけの世界一安い“海水”です。これを利用すれば海水のないところでも真水を使って海水魚を育てることができます。このことから、海から遠い山間地でも高級魚を養殖できるようになり、農業と漁業の密なる連携が可能で、一次産業・食の未来が開けてきます。

研究目標は陸上養殖の開発→漁業の工業化→中山間地の振興（農漁者の育成）です。好適環境水開発への経緯説明、そして魚病抑制・環境汚染の抑止・成長が早い・コスト減等のメリットがあること、実績としてはフグ・うなぎ・ヒラメを市場へ出荷して天然魚と変わらぬ評価を受けたとの事でした。現在はマグロやエビの実験中で、今後の課題としては自動管理システムの構築と甲殻類養殖への応用を掲げています。

我が国そして久慈市の漁業は危機的状況にあり、科学の力による陸上養殖は一考すべきものであり、持続可能な漁業・農業へと繋がる研究をいち早く探知し、取り組み可能かを検討すべきです。

東村研究員からの助言として、まずは地域に適した魚種の選択、更には燃料代が最大のコストとなるため、温泉・ごみ焼却場の廃熱やトンネルを利

用した施設づくりを指摘されました。

最後に海水魚と淡水魚が共に遊泳している水槽はJR岡山駅と八戸市水産科学館マリエントに展示してあります。

2. 岡山県真庭市は2005年3月に9町村が合併しました。面積約828km²、人口48800人、一般会計予算337億円、議員定数24名、西日本有数の木材集散地域で山林面積は66638haです。市役所において、CLTへの取り組みと農山村再生について視察研修しました。

(対応者) 議会事務局森岡参事、都市計画課池田主査、林業課大塚参事

市役所玄関前には美作桧回廊・CLTバス停、庁舎内も議場も地元材をあらゆる所に活用していて林業再生姿勢が窺えました。

真庭市は地域内経済循環を生み出し、持続可能な「杜市」づくりを目指して、木を使い切る真庭創出事業に取り組んでいます。その事業の川下を担うのがCLTやバイオマスの推進です。CLTの特徴は同じ体積のコンクリートと比較して重さは約1/5で、断熱・耐火・耐震性に優れていて、引張強度はコンクリートに匹敵し、横方向からの力にも強い地震の多い日本に適した建材とみられています。また、CLTを使うと建築現場で直ぐに組み立てられるため、コンクリート工事と比べて大幅に工期短縮となります。

国交省は来年度にもCLTを使った新しい建築基準を告示して、地方創成の観点から政府全体で後押しする計画です。

真庭市のCLT推進の取り組みは次の通りです。

- ア) 普及推進.
- | | |
|----------|----------------------------------|
| 平成26年11月 | オーストリアへの視察研修 |
| 平成26年12月 | CLT住宅構造見学会及び
CLT普及推進シンポジウムを開催 |
| 平成27年8月 | 真庭市長が「CLTで地方創成を実現する首長連合」の共同代表に就任 |
| 平成27年9月 | 「真庭でCLTを推進する会」設立 |
| 平成28年1月 | CLTセミナーを開催予定 |
| イ) 実例建築物 | 平成26年2月 CLTバス停完成(日本初の建築物) |
| | 平成27年3月 CLT市営住宅完成(日本初) |
| ウ) 建物以外 | 平成27年5月 CLTポンプ庫建設 |
| | 平成27年8月 CLTテーブル設置 |
- 久慈市にも森林資源が豊富にあり、木材加工業者が残っています、森林の

伐採から木材製品まで、川上から川下まで一気通貫で建材を作り、地域内循環で林業の再生と雇用を生み出す戦略として、CLTを推進する必要があると確信しました。既に建築士業界や木材加工業者は何度か勉強会を開催しており、当局は乗り遅れてように感じられます。林野庁は3F以上の新築がCLTに置き換われれば木材自給率が改善すると期待していて、林業サイクル再構築プロジェクトで支援しています。地元材の利活用が期待できるCLTを積極的に推進すべきです。

3. 島根県大田市は平成17年10月に市制施行、面積435km²、人口36,984人、議員定数20名、一般会計予算230億円です。日本海に面していて鳴き砂や世界一の砂時計があり、中央部には2007年に世界遺産登録された石見銀山遺跡があります。世界遺産「石見銀山」にかかる大田市の取り組みについて視察研修しました。

(対応者) 議会事務局次長 和田政人、観光振興課 中村和也

世界遺産登録に至った経緯等を聞き、観光客の入込状況を説明してもらいました。登録直後は約80万人だったが、登録理由のポイントだった環境に配慮し自然と共生した鉱山運営との立場から路線バスを廃止し、それ以降は約50万人前後で推移しています。今後の観光客動向を団体客は減り、個人が増えてくる傾向にあると予測して、「歩く観光」へ転換(ゆっくり巡るスタイル)していくと合意形成ができた。H20には民間での主体的な取り組みを支援するため「石見銀山基金」を設置し、現在は3億8千万円になっている。景観にも配慮してH22には電線類地中化も完成した、ガイド登録は57人でリピーターの確保に努めている。通過型観光からの脱却が課題で、周遊の仕組みづくりを推進している。今後の方向性として、温泉・食を生かした滞在型観光商品開発、インバウンド観光の推進、点から線・面へと広域連携の強化(世界遺産連携・日本遺産連携・出雲や松江からの誘客促進)に取り組み、全庁的な様々な分野にまたがる事業展開をする。

久慈市と同じく通過型観光対策が課題で、色々と参考になりました。その後、現地でレンタサイクルに乗り、ゆっくり巡るスタイルを体験しました。小袖海岸の細道や“もぐらんぴあ”・街中周遊へ自転車見学の推進を検討していきたい。面としての観光開発は重要と思う。

帰路、仁摩サンドミュージアムの世界一の砂時計を視察しました。16世紀の世界一の銀採掘量、20世紀末でのギネスブック、同市内の二つもの

世界一は後世の財産となっています。

4. 移動と時間調整から実現した視察案件

- ・仁摩サンドミュージアム…ふるさと創生一億円事業でギネス獲得。
- ・島根県立古代出雲歴史博物館…日本の源流に触れる出雲国風土記。
- ・紫波町立図書館…オガールプロジェクトで図書館を活用した街づくり。

以上、政和会行政視察について別紙資料を添付してご報告します。

平成 27 年 12 月 24 日

政 和 会

濱 欠 明宏

佐々木 栄幸

大 沢 俊光

砂 川 利男

黒 沼 繁樹









